

令和7年度 図画工作科・美術科訪問指導の重点

造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わうとともに、生活や社会の中の形や色、美術や美術文化などと豊かに関わる資質・能力を育成する。

訪 問 指 導 の 観 点

1 指導計画の工夫改善

- (1) 指導内容の系統性や学校段階のつながりを踏まえた指導計画の工夫改善を図る。
【小】指導内容の系統性を踏まえ、「造形遊びをする活動」と、「絵や立体、工作に表す活動」をバランスよく指導する年間指導計画の工夫改善を図る。
【中】各学年のA表現、B鑑賞及び〔共通事項〕の内容をすべて指導し、A表現においては「描く活動」と「つくる活動」をバランスよく指導する年間指導計画の工夫改善を図る。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、題材全体を見通し、指導内容の重点化を図った指導計画の工夫改善を図る。
- (3) 日々の授業の様子や振り返りシート等で学習状況を的確に把握し、指導目標を明確にする。
- (4) 題材の指導目標に準拠した評価規準（内容のまとまりごとの評価規準）を児童生徒の姿で具体化し、指導と評価の一体化を十分に図る。

2 指導方法と評価の工夫改善

- (1) 自分の課題や学習状況を判断し、造形的な見方・考え方を働かせて、自ら表現形式や技法、材料や用具、資料等を選択して表現したり、鑑賞したりすることができるよう、児童生徒と評価規準の共有を図るなどして、育成する資質・能力と学習内容の関係を明確にした指導方法の工夫改善を図る。
- (2) 児童生徒が自分の課題を解決するために、試したり、交流したりすることができる学習環境を工夫する。
- (3) 児童生徒の学習改善につなげたり、教師の指導改善につながったりするよう、単位時間の指導目標及び評価規準に照らして身に付けた資質・能力の定着状況を見届けるとともにその後の指導に生かすことができる評価を工夫する。
- (4) 児童生徒が自分自身で自己の変容を実感するとともに、活動内容だけにとどまらず、造形的な視点でも振り返ることができるよう終末（ワークシートの文言・形式、価値付けのタイミング等）を工夫する。
- (5) ICTの効果的な利活用を工夫する。
 - ・デジタルコンテンツを使用することで子どもの願いや考えを視覚化し、学びに生かせる活動方法の工夫
 - ・児童生徒の学びを支える材料・用具の使い方（技能指導と安全指導）を、動画等を活用し指導する。
 - ・児童生徒が学びや変容を自覚できるよう、学習過程の写真や〔共通事項〕を踏まえた振り返りを蓄積できるようなワークシートの工夫改善を図るために、協働学習支援ツール等の機能を効果的に用いる。
 - ・造形遊び等、活動の様子をタブレット等で動画記録に残すことで、今後の指導援助や評価に生かす。

3 学習集団の育成

- (1) 必要に応じた交流を通して、造形的な見方・考え方を働かせることができる学習集団の育成を図る。
- (2) 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わりながら、造形的な見方・考え方を働かせるため、〔共通事項〕を踏まえた図画工作科・美術科の学び方（発想や構想の仕方、表現の追求の仕方、鑑賞の仕方、用具の扱い方、資料等の活用の仕方等）が身に付くよう、計画的、継続的に指導する。